

新型コロナの影響で、これからの留学はどうなるのか!?

新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、日本も出入国制限を始めた3月には、留学に出発したばかりの留学生が緊急帰国を余儀なくされ、また、これから海外の大学へ飛び立とうとしていた多くの学生が予定の変更を余儀なくされました。いつになったら安心して留学できるのか、先が読めない状況に、留学を希望する皆様は不安を抱え、保護者の方や先生方も現状の把握に苦労されているのではないのでしょうか。

国やエリアによって影響の度合いは様々であり、感染症危険レベルや入国制限の状況を確認することは、留学希望先の現状を知るためにも役立ちます。ただし、オーストラリアやニュージーランドのように危険レベル3（渡航中止勧告対象）とされているものの、国内では新規感染者の発生が極めて少なく日常生活がほぼ正常に戻っている場合もあります。

状況は日々刻々と変わっているため、最新情報は外務省の海外安全ホームページでご確認ください。

●外務省 海外安全ホームページ 「新型コロナウイルス感染症に関する緊急情報」

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

●同 海外安全ホームページ 「日本からの渡航者や日本人に対して入国制限措置をとっている国・地域」 https://www.anzen.mofa.go.jp/covid19/pdfhistory_world.html

大学の授業について

アメリカでは、夏休み明けに開始する新学期についても多くの大学がリモート授業の実施を決定しています。イギリスも同様に、多くの大学が来年の秋頃までリモート授業の実施を決定しています。一方、状況の好転が著しいニュージーランドでは、5月18日から学校の対面式授業が徐々にスタートしており、大学では一部リモート授業を行いながら対面授業も実施しています。オーストラリアの小中高では学校への通学も始まっていますが、大学は大半がリモート授業を続けており、新しく留学生を受け入れられるのは2021年の1月～2月の新学期からであろう、というのが関係者の見通しです。

リモート授業を受けている日本人留学生によると、授業はリアルタイムで行われるものの、授業は録画されるので、分からなかったところを見直すことができ良いという面もあるようです。また、ディスカッションでは、タイミングが難しく発言しづらいという声もあれば、質問を話の途中でもチャットに書き込むことができる利点があるという声もあります。

これから留学はどのようにっていく？

これまでもオンラインで単位履修ができる授業が珍しくなかった海外の大学では、従来の遠隔地教育としてのオンライン授業に加え、新しい授業スタイルとしてオンラインとオフラインのハイブリッド化が進むことが予想されます。日本の学校にも当てはまりますが、通学が許可され対面授業が再開しても、密な状況を防ぐための対策が必要であり、そのためのシステム構築が進められています。新型コロナウイルス感染症のみならず、将来想定される様々な要因によって授業を休講する事態を防ぐため、IT を駆使した教授法は間違いなく浸透していきます。それによって、留学後の学習の在り方が多様化し、留学生自身の自己管理能力が益々問われるようになるでしょう。

これからの留学に必要なもの

今までもこれからも、語学力は絶対的に必要なものです。いわゆる英語4技能の力は留学においての基本となります。

リモート授業では意見を述べるタイミングがとりづらく、特に語学力に自信がもてないと、頭の中で文章を作っている間にタイムアップということもあります。たとえ文法的に間違っていたとしても物怖じせずとにかく話すという意欲と、自信をもって発言できるスピーキング力はこれまで同様に必要です。そのうえで特にキーボードが早く打てることは、前述のようなチャットをする場面で大いに助けとなります。

現在、多くの語学学校では現地に残った留学生のために始めたオンライン授業に、海外からの受講生を受け入れています。大学では進学のためのスタディスキルを身に付けられるアカデミック英語クラスもオンライン授業で提供しているので、日本にいる間に様々な国籍の留学生と授業を受け、英語に慣れておくといいでしょう。

また海外の大学が行うウェビナー（ウェブ配信するセミナー形態）も数多く行われています。無料で参加できるウェビナーも多いので、気軽に参加してみましょう。リスニングのトレーニングになるだけでなく、授業で使用される IT ツールに慣れておくこともできます。

日本の大学受験も現在ほぼ前年と変わらないスケジュールが予定されているのと同様に、海外の大学も出願スケジュールにほとんど変わりは見られません。一方で、出願書類に必要な各種テストの開催が中止、延期されることも想定し、早めに受験日を設定して、タイムスケジュールを組んでいきましょう。